

天地の奥に

(昭和十八年竈歌)

橋爪秀雄君 作歌

池田政晴君 作曲

一

天地の奥に征く吾や
弧杖無限に旅立ちて
溪巒はるか訪ね来し
榆陵の宿や三春の
旅にしあれどそは深き
噫 魂のふるさとか

二

四大も夢む幌のさと
歌の心を温めれば
甕り床しきアカシヤの
花灰白き憂あり
夏宵の露 霰びきて
月皎々の滄海をゆく

三

大空風に咽ぶよひ
暮鐘は低く漂ひて
荒野は凋落の悲歌に泣く
栄枯は移る秋の日の
秋思の歩み運ぶ夜半
久遠の星を仰がずや

四

高き理想は人の世を
人の世と生く佗しさに
坤球鳴りて吹雪き狂ふ
孤高の峯に伏する今
浮生の夢は消え果てて
心虚しき歓喜よ

五

北溟春は浅けれど
森かげ清く黄花咲き
雲雀は高く空に入り
新生の合唱野に満てり
古衣を重ねる日は逝いて
時乾坤に春よ立つ

六

いざ浩歌はなん天壤の
栄ゆる時ぞ益荒男の
事ふる道は烈しかる
今宵祭の聖き火に
尊き誓ひ立てよかし
興亡分るる秋なれば